

平成18年7月豪雨の概要

降雨の概要

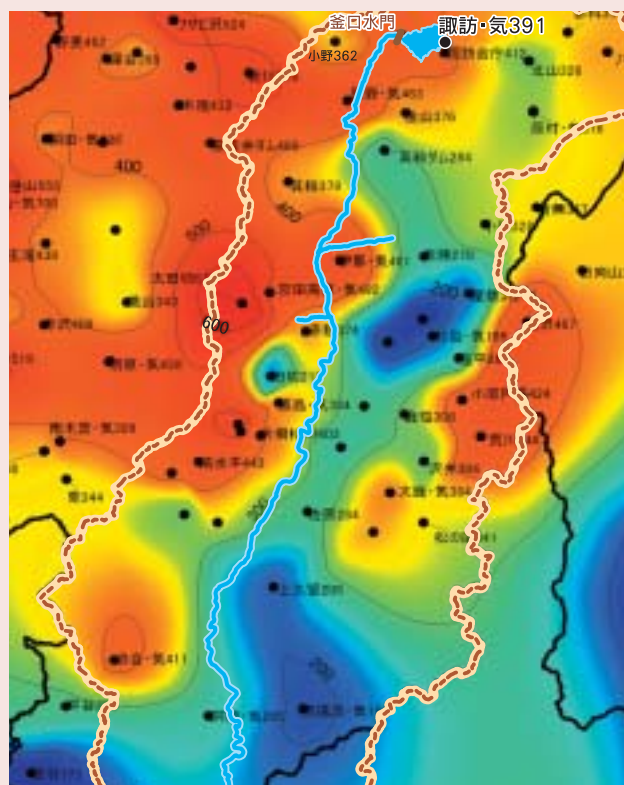
平成18年7月15日以降、梅雨前線は本州付近に停滞し南からの暖かく湿った空気の影響で梅雨前線の活動が活発となり、長野県内では18日夕方以降、記録的な豪雨となりました。

特に諏訪湖上流域、伊那伊北地区の天竜川右岸地域で多量の降雨を記録し、諏訪観測所では2日連続で日雨量が観測史上第2位、第3位となったうえ、24時間雨量では223mm、48時間雨量では317mm、辰野観測所においても24時間雨量246mm、48時間雨量335mmの観測史上最大となる雨量を記録しました。

レーダー観測による雨量分布

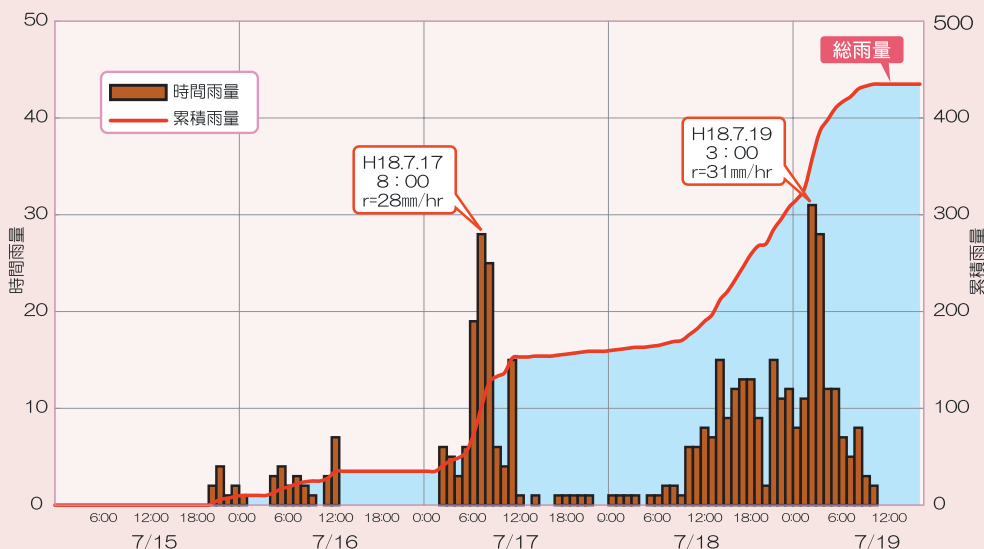


総雨量等雨量線図



釜口水門(県)降雨量グラフ

雨量のピークは、17日の午前中と19日の早朝に発生しており、2山降雨でした。また、18日12時頃から19日6時頃までの18時間にわたり、時間雨量10mm以上の降雨が断続的にありました。

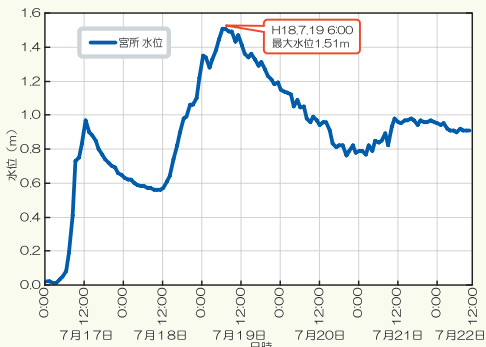


出水の概要

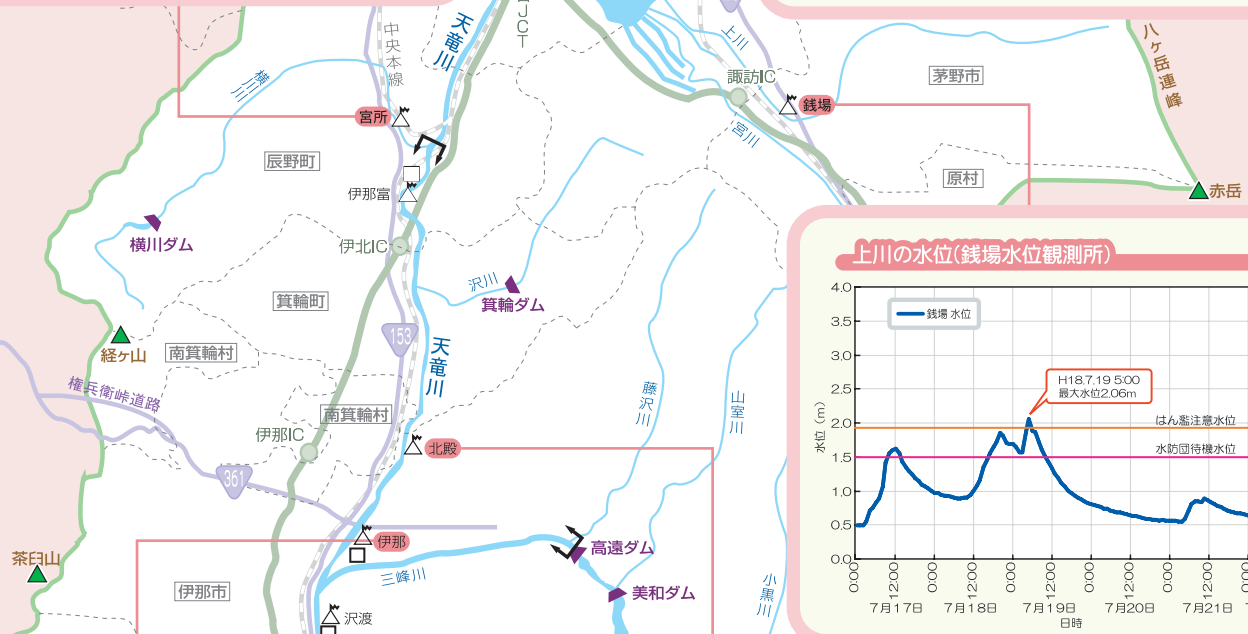
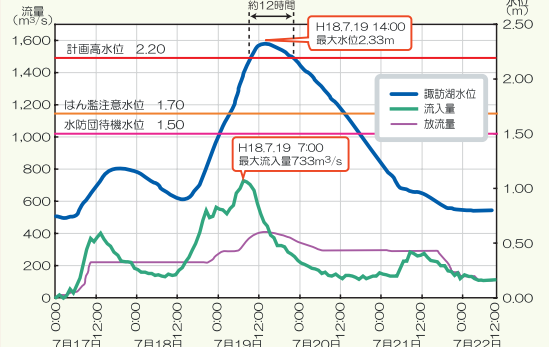
諏訪湖では、この未曾有の豪雨に伴う出水により、平成18年7月19日9時から21時まで、約12時間にわたり湖面水位が計画高水位を上回りました。(最大約13cm) 天竜川では、平成18年7月18日22時30分に全ての観測所ではん濫注意水位(警戒水位)を超過しました。北殿水位観測所では、18日19時にはん濫危険水位を超過、さらに19日5時10分に計画高水位を超過してから、12時10分に計画高水位を下回るまで約7時間の間、危険な状態が続きました。この洪水で伊那流量観測所では観測史上最大流量となる約1100m³/sを記録しました。

計画高水位	河川整備の目標としている水位。この水位の水を安全に流すように堤防設計される。
はん濫危険水位(危険水位)	氾濫の恐れが生じる水位。
避難判断水位	洪水による災害の発生を特に警戒すべき水位であり、住民等が避難をする目安となる水位。
はん濫注意水位(警戒水位)	水防団等が出動をする水位。
水防団待機水位(通報水位)	水防団等が出動の待機をする水位

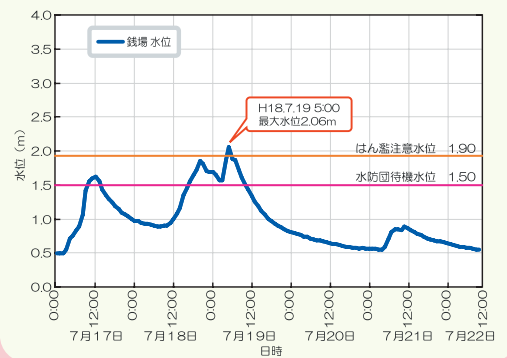
横川川の水位(宮所水位観測所)



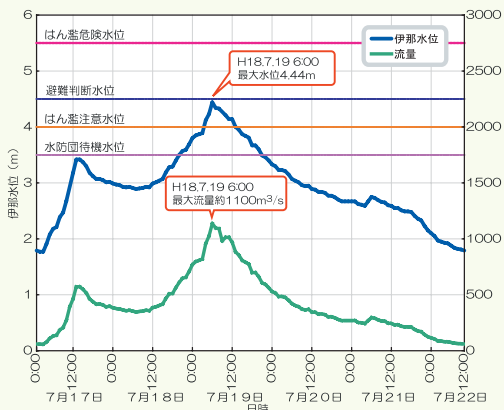
諏訪湖の水位と流入放流量



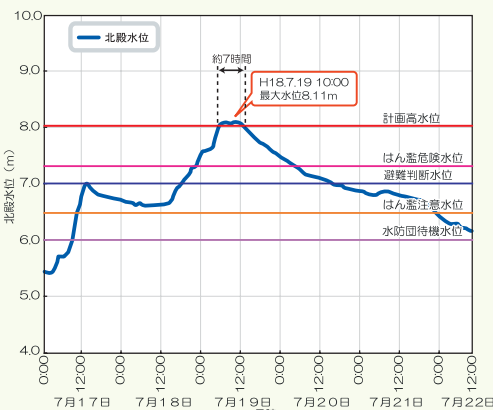
上川の水位(銭場水位観測所)



天竜川の水位と流量(伊那水位流量観測所)



天竜川の水位(北殿水位観測所)



- 流域界
- 市町村界
- 高速道路
- 国道
- 鉄道
- 水位観測所
- 流量観測所
- 国管理区間